

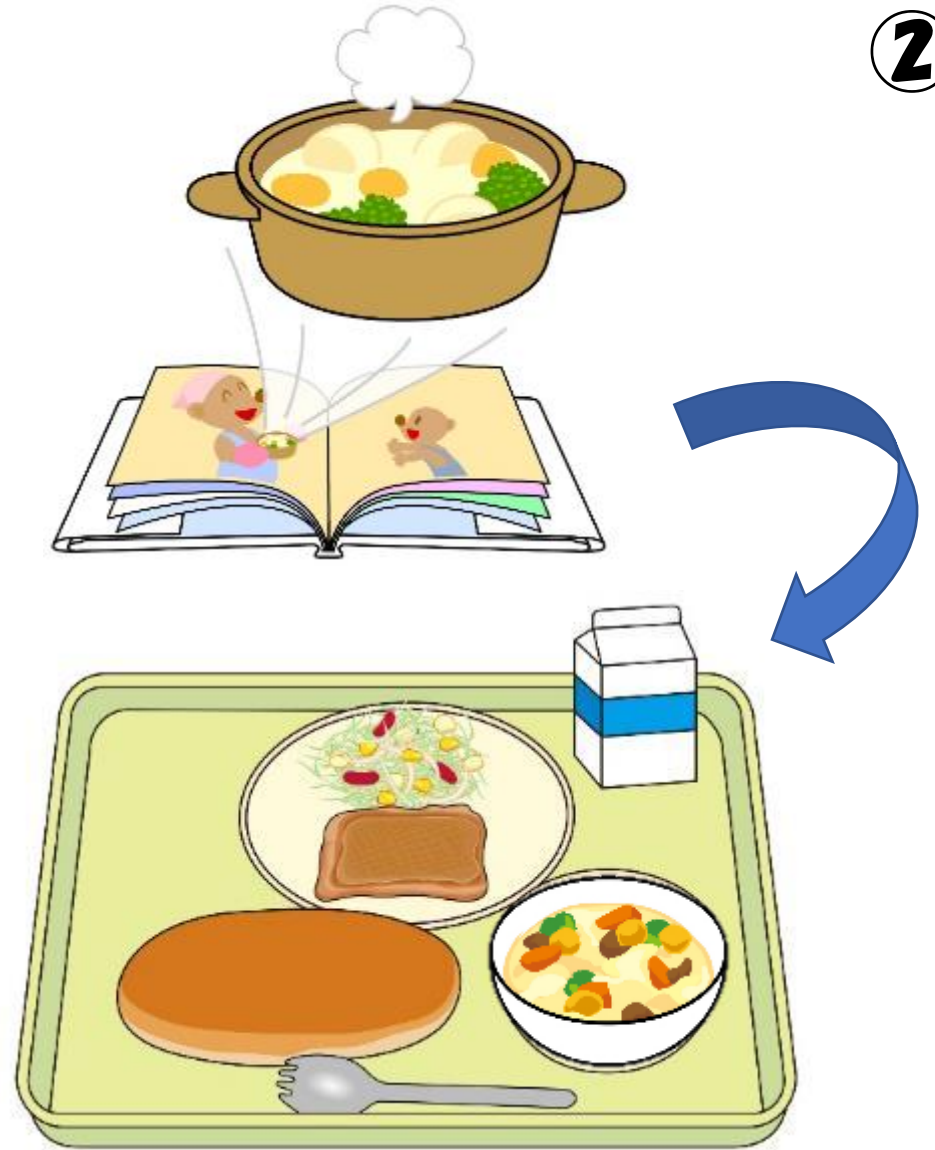
<今日のテーマ>
物語に登場する料理
を味わおう！

12/12(火)~22(金)は「読書週間」

読書週間にあわせて 今日の給食は、 **ブックメニュー**です！

ブックメニューとは・・・
本に出てくる料理や食材を
給食で作ります。

「読んでみたい！」と本を読む
きっかけになれば嬉しいです。



ラバ通りの人びと

ロベール・サバティエ 作 堀内 紅子/松本 徹 訳 オリヴィエ少年の物語 ①



FUKUINKAN BUNKO

ラバ通りの人びと オリヴィエ少年の物語 1

ロベール・サバティエ 作
堀内紅子/松本徹 訳
福音館書店



どんな物語？

舞台は1930年代のフランス・パリの下町。
父を早くに亡くした10歳の少年・オリヴィエは、
母と2人暮らし。ところが、その母も急死して
しまいます。決して恵まれた環境とはいえないけれど、明るく強く生きる
オリヴィエに勇気をもらえます。

『ラバ通りの人びと』 ロベール・サヴァティエ

今日の給食では、

「パン・ペルデュ」を再現！

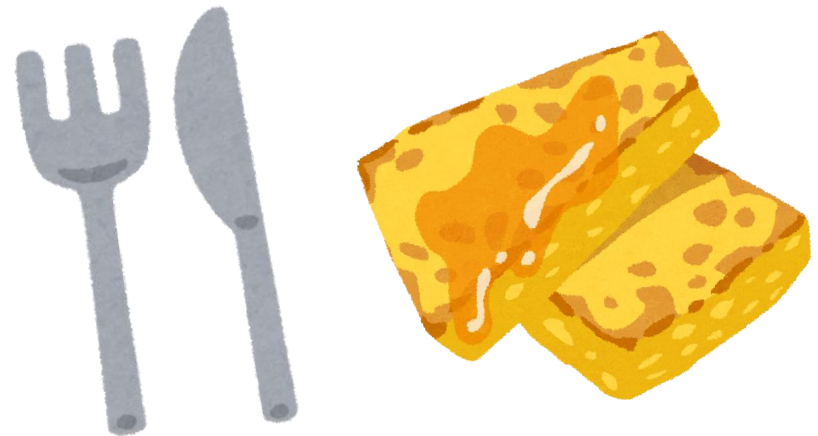
「失われたパン」という意味。
かたくなったパンを卵液に
ひたしてつくる
フレンチトーストのことです。



『ラバ通りの人びと』 ロベール・サヴァティエ

「パン・ペルデュは貧乏人のごちそうだった。
かたくなってしまったパンをむだにしないためと
称して、薄切りのパンを甘くした牛乳にひたし、
オレンジ水と卵を加え、こんがりと焼く。」

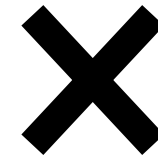
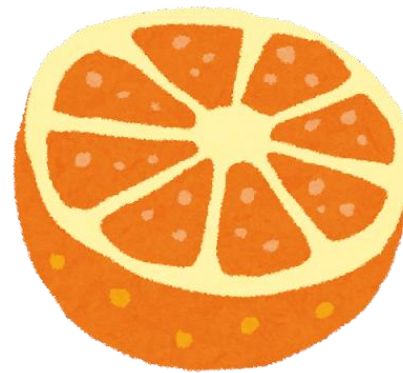
（本文より）



『ラバ通りの人びと』 ロベール・サヴァティエ

オレンジジュースをパンに
ひたすのは意外に思うかも！？
オレンジジュースの
さわやかな香りが
食欲をそそります。

「安上がりでおいしい
奇跡のひと皿」と
紹介されています



『ラバ通りの人びと』 ロバール・サヴァティエ

司書の中山先生から

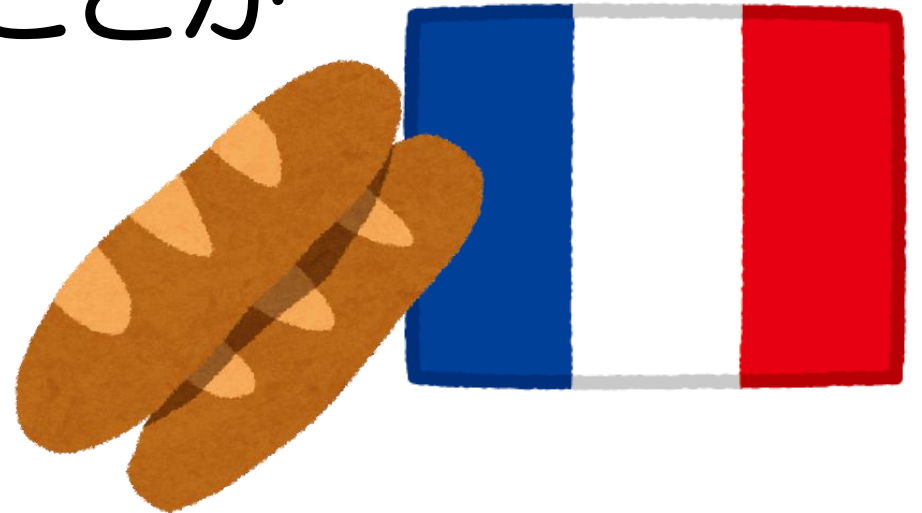
パンについての本も図書館にあります。

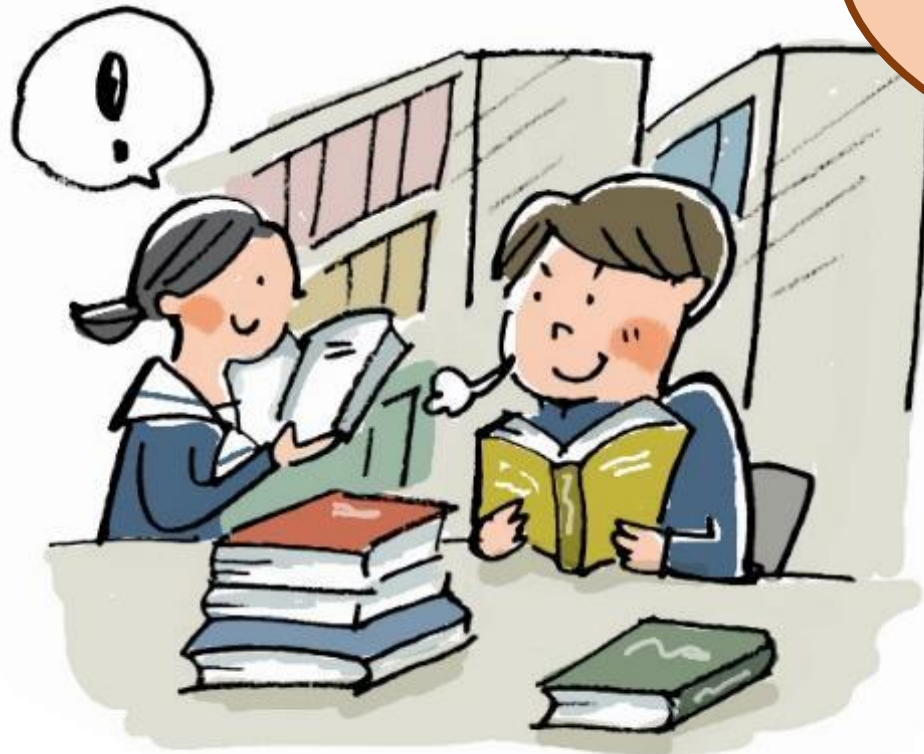
『パン語辞典』は、イラストや豆知識たっぷりの楽しい本。
パンペルデュものっています。



『ラバ通りの人びと』 ロベール・サヴァティエ

フランスの今の様子を知りたい人は、
『フランスの中学生』を。
たくさんの写真から日本とは
全くちがった文化に触れることが
できます。





気になったら
ぜひ読んでみて！

図書館入口の
ブックメニューコーナー
に本があります。